

石巻専修大学

http://www.senshu-u.ac.jp/shinomaki/

石巻専修大学
広報係
☎986-8580
宮城県石巻市
南境新水戸1番地
☎0225-22-7717(直)

2016年4月
創立30年
を迎え

石巻専修大学長 坂田隆 2016 年頭の抱負

生涯学び続ける人づくり



明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

学内外の環境 さまざま進展

今年、2017年度からの新しいカリキュラム編成と並んで、入学受入れの方針(アドミッション・ポリシー)、教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)の策定の仕上げをする年になります。これと並んで、定員充足への取り組みが最優先の課題となります。

高い評価得た 地域との連携

いっぽう、学生諸君の活躍もめざましいものでした。経営学部「復興ボランティアワークショップ」の全国各地の大学での開催、「カニだしラーメン」の発売、ボランティアサークル「ひだまり」による子どもたちの支援などは社会や地域と連携した活動で、高い評価を得ています。

また、4月に発足した女子競走部は、大学女子駅伝の全国大会「全日本大学女子駅伝対校選手権大会」で健闘。11月の「宮城県女子駅伝競走大会」では、全5区間中3区間で区間賞となり、見事に優勝しました。そのほか、弓道部も東北地区2部リーグで優勝し、今後の活躍が期待されます。

海外との交流 質量とも充実

国際交流では、さまざまな海外からの訪問者にくわえて、テイラー・アンダーソン記念基金の支援で、米国のランドルフ・メーコン大学との交流を行い、7月には先方からの学生・教職員を受け入れました。9月には本学の学生5人と教職員2人が先方を2週間訪問し、防災や復興についての研究を行いました。また、イタリアのファッションブランドであるアルネッロ・クチネッリ社の支援をうけて、学生1人が同社の経営する学校に2週間招待され、研修を受けました。

寄稿

イタリア研修

佐久間良輔さん(理工4)

私は現在、NPO法人TEDIC(石巻市)で理事兼チーフコーディネーターとして、不登校の子どもたちに対する支援を行っています。卒業後はこのNPOに就職し、地域全体で子どもたちを支えられるように、石巻市と地域のつながりを作

地域創生に必要な 視点と情熱を知る

「地域創生」に携わりたいと考えています。今回の研修では限界集落にミシンを使うのは中学以



▲ 実習で作ったシャツを手に

など実習が中心で、スーアのポケットやニット製品を作りました。針やミシンを使うのは中学以下でないと考え方を人間関係が別の職業で役立つかもしれない。少なくとも無駄になることは教えて

で、仮に成果が上がったとしても、それをずっと続けていくためには何が必要かを考えることが大切だと気付かれました。もう一つは、情熱の共感です。クチネッリ氏は「質の良い商品を作りたい」「職人の技術を未来に残したい」「地域をよりのよい場所にした」という思いを発信すること、周囲の人々を巻き込ませ、石巻に必要な地域創生のかたちを今後とも考えていきます。

完成した茅の輪の前で



しめ縄づくり ボランティア

ご神体の巨石が「落ちそうで落ちない」姿から、受験の神様として有名な釣神社(石巻市北上町)で12月13日、恒例のしめ縄・茅の輪づくりが行われ、本学から初めて学生12人と職員4人がボランティアで参加した。

研究成果を発表

まち歩きとマップ

日本観光研究会の東北支部大会(12月19日、盛岡市・いわて県民情報交流センター)に、経営学部・丸岡泰ゼミの伊藤慎之介さん(経営2・宮城県仙台育英学園高)と白野雅寛さん(経営2・秀夫阪南大学教授)と日本観光研究会(会長吉兼丸岡教授)が共催した2日間の活動のアンケート結果を報告した。



発表する白野さん(左)と伊藤さん



料理で食育学ぶ

人間学部人間教育学科の専門教育科目「子ども食と栄養」の調理実習が12月17日に行われ、学生22人がクリスマスにちなんだ料理作り挑戦した。写真は、メニューはキャンディサンド、クリームシチューだ。

クリスマス



ミニコンサート

学生会主催のクリスマスイベントが12月14日から18日までの5日間、学生ホールで行われた。期間中は昼休みに、吹奏楽部が演奏し、多くの学生が集まり、成功に終わった。今後もさまざまなイベントを企画し盛り上げたいと話した。